

論

説

流言飛語の古典的な法則がある。Rumor=Importance X Ambiguity である

(オルポート、ポストマン共著「デマの心理学」)。

根拠のないデマやうわさは、重要さといまいさに比例する。いかに重要でもあまいではない、逆にあまいでも重要ではない場合は、流言飛語はゼロになるわけだ。



宮武 剛

新型コロナウイルス

新型コロナウイルスは、命と健康を脅かし、まだワクチンも治療薬もない恐怖である。放置すれば流言飛語は猛威を振るう。中国では「バナナを食べると感染する」「ニンニクやシヨウガが効く」などとデマが広がった。日本も負けてはい

ペーパーの買いあさり誘った。流言飛語を取り締まるどころか、その大本であった。時代を超えて流言飛語の法則は生き残り、口コミ程度だった昔とは異なり、現代はSNSによる発信・受信の交流、つぶやきや写真・動画の提供が加わった。「あまいさ」を出来る限り廃したい。

太平洋戦争で敗戦必至の頃、米軍機の空襲におびえ逃げ惑う庶民の間に、うわさが広がった、と作家の高度は日記に書いた。「爆弾よけとして、東京ではらつきようが流行っている。」

新型コロナウイルスは、命と健康を脅かし、まだワクチンも治療薬もない恐怖である。放置すれば流言飛語は猛威を振るう。中国では「バナナを食べると感染する」「ニンニクやシヨウガが効く」などとデマが広がった。日本も負けてはい

デマや流言をどう防ぐ

「26、27度の湯を飲むと治る」「花崗岩が効く」、さらに「大事な方に教えてあげて」と拡散を促す。マスク不足が供給十分のトイレットペーパーやティッシュ

事実の確認を軽視・無視した風評や私見が瞬時に国境も軽々と越え拡散していく。新聞に代表されるメディアは長年の積み重ねで膨大な情報から「事実」を選び

「26、27度の湯を飲むと治る」「花崗岩が効く」、さらに「大事な方に教えてあげて」と拡散を促す。マスク不足が供給十分のトイレットペーパーやティッシュ

政府や自治体による情報規制が「真実」を覆い隠す危険性は現代にもある。中国では新型コロナウイルスの脅威にいち早く警告を発した青年

みやたけ・ごう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院理事長

45年4月24日)。
流言を拡散した幾人かは憲兵隊に検挙された。だが、政府・軍部は負け戦を隠し、大戦果をでっち上げ続け、医師らが逆に処分された。

(本紙論説委員)